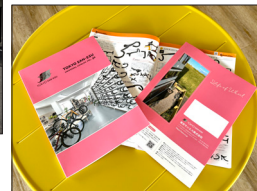


東京サンエス総合カタログ Vol.30

1月20日に「TOKYO SAN-ESU UNIVERSAL CATALOG VOL.30」を発行いたします。今年も埼玉県志木市「サンエスペース 羽根倉通り」のお隣で製作いただいた「Made in 羽根倉通り」「Designed in 東京上野御徒町サンエス本社」です。掲載点数が増えたことによってVol.29から10ページ以上ボリュームアップしています。なぜ総合カタログを「UNIVERSAL=ユニバーサル」と名乗っているのかと言うと、“みんな”の普遍的なカタログでありたいとの思いから表紙に明記しています。また裏表紙には「Life of Wheel」のキャッチコピーを入れています。これはまさに“輪の人生=人生は輪”であるということです。



【APPROVED UCI】



OnebyESU JFF#807z が「UCI=国際自転車競技連合」からレースでの使用について製品承認を受けました。1月末のシクロクロス W 杯最終戦と2月にチェコで開催される世界選手権2024に鈴木来入選手がJFF#807zで参戦します。尚、現在承認されているのは現在販売中のS/M/Lサイズとなり、XSサイズは次回生産からの承認となります。また対象のフロントフォークは「OBS-CBD1.25TH」となります。



【シクロクロス全日本選手権 2024 (1/13-14 宇都宮)】

・U23：鈴木来入 選手 (3 位)

優勝奪還を目指して参戦のU23最終年。序盤の焦りから上位2名に敵わなかったものの、後半はトップ2名よりも速いラップを記録しており、この悔しさをバネに世界選手権(U23 2月3日)で納得のいく走りを期待したいところ。



▲レジェンド辻浦圭一氏からアドバイスを受ける来入選手



▲今やトップクラスではバニーホップが当たり前の様子



▲サンドエリアや急坂をこなした後半はベストラップを刻む



▲大変悔しい3位という結果

・男子エリート：門田祐輔 選手 (21 位)

近年のロードレースでの活躍から主催者推薦でエリートに出場が決まり練習こそそこで参戦となった門田選手。

最後尾から持ち前の強いフィジカルで約30人を抜かしての-3Lapでした。CXでもまだまだ上を狙える選手です。



欧州選手に引けを取らない体格の門田選手、本格的にCX競技に取り組んだらかなり脅威となるのでは



今年の全日本には弊社もブース出展し、JFF#807zや#901の試乗車でも賑わい、選手たちもピットとして利用しました。

・女子エリート：大蔵こころ 選手 (4 位)

人一倍負けん気の強いこころ選手は、精一杯の頑張りで4位。終わると同時に次の全日本ではトップを獲るという気迫が感じられました。小柄ながらマルチプレイヤーでもあり、今後も多方面に活躍するでしょう。



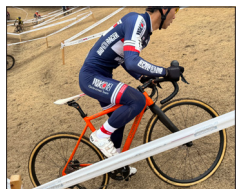
◀XSサイズに乗るこころ選手



▶サンドエリアも乗りこなすテクニックを身につけた

・マスターズ40+MM1：池本真也 選手 (11 位)

思いのほかドライコースとなり持ち前のテクニックが活かせなかった様子ながら健闘。池本選手はJ-SPORTSのTV放映でのわかりやすい解説に定評があり1/21・1/28のW杯や2/4の世界選手権も解説されます。



▶後半に少し雪が舞う中、声を掛ける辻浦圭一氏

◀全体的には高度な走行技術を発揮し辛い、コンディションとなった



新年のご挨拶

年明けから甚大な震災に遭われ、寒空の下、今も通常とは程遠い生活をされている多くの方々に心よりお見舞い申し上げるとともに一日も早く心穏やかに過ごせるようになりますことお祈りしております。

自身も経験した東日本大震災でも感じましたが、悲しいニュースの中にも純粋に他者を思いやり、それぞれ出来ることで助け合い、乗り越えようとしている姿に心打たれます。素直に、純粋に、他者を思いやり行動することで、別の変化も生まれます。日々多くの皆さまに支えていただいていることを忘れずに今年をスタートして参りたいと思います。

今年もどうぞよろしくお願い致します。

代表取締役 坂井美紀